

2014年5月28日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る関西経済(2014年5月)

【今月の景気判断】

関西経済は、消費税率引き上げの反動により一部でこれまでの増勢が一服しているものの、緩やかに持ち直している。生産は消費税率引き上げ前の駆け込みが影響して増加したが、足下では高水準で横ばいとなっている。輸出入は月次の振幅はあるものの、均して見ると横ばいで推移している。雇用環境をみると、完全失業率、有効求人倍率などが緩やかに持ち直している。賃金は緩やかに減少している。個人消費は消費税率引き上げ前の駆け込みの後、一部に反動減がみられる。住宅投資は、消費税率引き上げ前の駆け込みの後、昨年終わりごろから減少している。一方、設備投資は、大企業の実績が足下で前年比増加となるなど、非製造業を中心に持ち直してきている。公共投資は、請負金額をみると増加している。関西経済の先行きは、一部に見られる増税の反動が一巡した後は、海外経済が緩やかに回復する中で、持ち直しが見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	→		↗
個人消費	↘		↗	輸入	→		→
住宅投資	↘		↘	生産	→		↘
設備投資	↗		↗	雇用	↗		↗
公共投資	↗		→	賃金	↘		→

注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～中国などアジア経済の回復の動きと同地域向け輸出の動向
- ・企業活動～電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイスなど電気製品関連の生産動向、企業の収益と設備投資の動向
- ・政策～政府の成長戦略、消費税引き上げ後の物価動向と日銀の追加金融緩和
- ・家計～消費税率引き上げ後の消費の反動減と賃金引き上げの動向

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田裕昭

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

同時配布先：大阪商工会議所内経済記者クラブ、大阪日銀クラブ

【各項目のヘッドライン】

項目	4月のコメント	5月のコメント	ページ
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	3～4
2. 生産	緩やかに持ち直している	駆け込み需要が影響して高水準横ばい	5～6
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	7～8
4. 賃金	緩やかに減少している	緩やかに減少している	8～9
5. 個人消費	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	緩やかに持ち直しているが、一部に駆け込み需要の反動がみられる	9～11
6. 住宅投資	減少している	減少している	11
7. 設備投資	非製造業を中心に持ち直している	非製造業を中心に持ち直している	12～13
8. 公共投資	増加が一服している	増加している	13
9. 輸出入	輸出は横ばい、輸入は増加傾向	輸出、輸入とも横ばい	14
10. 物価	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	15
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は前年と同数、負債総額は減少	16

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

（*）参考資料：「グラフでみる景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
2. 生産

近畿地区の鉱工業生産は1月以降駆け込み需要が影響して高水準で横ばいとなっている。3月は前月比+0.6%と2ヶ月ぶりに小幅増加した。

5. 個人消費

日本百貨店協会「百貨店売上高」によると、近畿地区の百貨店売上高は、3月に前年比+15.4%増となった後、4月は同-13.5%減となった。

8. 公共投資

4月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比+20.3%の1,870億円と2ヶ月連続で増加した。

9. 輸出入

輸出入とも月次の振幅があるものの、均してみれば横ばいとなっている。

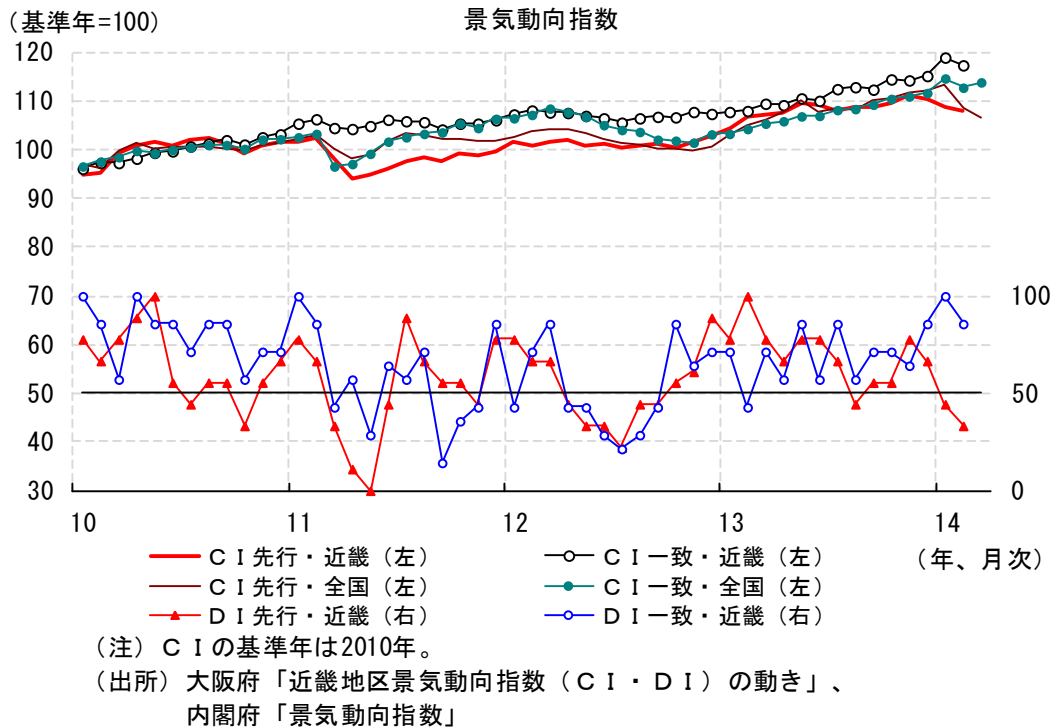
【主要経済指標の推移】

経済指標		13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 10-12	14 1-3	13 11	13 12	14 1	14 2	14 3	14 4
景気全般	景気動向指数（近畿）C I 先行指数（05年=100）	111.7	110.5	108.1	110.3		111.1	110.3	109.0	107.9		
	C I 一致指数（ " ）	112.3	113.8	114.4	114.8		114.4	115.3	119.1	117.5		
	D I 先行指数（%ポイント）	85.2	74.1	55.6	66.7		77.8	66.7	44.4	33.3		
	D I 一致指数（ " ）	61.9	66.7	71.4	73.8		64.3	85.7	100.0	85.7		
	景気ウォッチャー調査（近畿）現状判断D I（ " ）	57.1	57.7	53.1	54.9	57.6	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6
	先行判断D I（ " ）	60.6	57.1	53.7	57.8	50.5	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4
	日銀短観（近畿）業況判断D I 製造業（%ポイント）	-15	-8	-4	4	9	<6月予想>					
	非製造業（ " ）	-9	-3	-1	0	8	<6月予想>					
生産	法人企業統計（近畿）経常利益 製造業（兆円）	0.5	0.8	0.5	0.8	0.8						
	非製造業（兆円）	0.3	0.6	0.4	0.4	0.4						
	鉱工業生産（近畿）（季節調整済、前期比・前月比）	-0.9	0.6	0.3	0.0	5.3	-0.2	0.4	5.3	-0.6	0.6	
	鉱工業出荷（近畿）（ " ）	0.3	-0.3	0.5	1.3	5.5	1.2	0.1	5.7	-1.1	0.4	
	鉱工業在庫（近畿）（ " ）	-0.7	-0.3	1.4	1.0	0.7	-1.2	2.1	0.4	-0.3	-1.5	
	鉱工業生産（近畿）鉄鋼（ " ）	4.9	1.9	0.0	5.1	1.7	2.0	1.1	1.5	-0.7	-2.5	
	金属製品（ " ）	-8.3	5.1	-1.0	-3.6	-0.2	-4.2	4.9	4.6	-10.7	3.1	
	一般機械（ " ）	1.1	0.1	2.5	-2.4	0.7	-1.6	-4.2	4.3	-4.1	8.6	
	輸送機械（ " ）	9.3	-0.8	-1.4	7.8	2.3	4.3	2.2	4.5	-4.6	-5.8	
	電気機械（ " ）	5.1	5.2	0.6	3.1	12.9	3.0	2.5	11.7	-1.7	-1.0	
	化学（ " ）	-3.0	-4.4	0.9	-5.0	17.0	-2.2	-0.7	17.0	3.0	-2.0	
雇用	大口販売電力量（関西）	-5.5	-4.3	-1.1	0.4	1.4	-0.4	-0.2	3.0	1.5	-0.1	
	完全失業率（近畿）（%）	5.0	4.3	4.1	4.2	4.1	3.9	3.6	4.2	4.3	4.4	
	就業者数（近畿）（万人）	973	991	989	1004	1011	1021	1012	984	983	983	
	雇用者数（近畿）建設業（前年差、万人）	4	-4	1	0	-2						
	製造業（ " ）	-4	0	8	3	1						
	運輸業、郵便業（ " ）	-1	2	-1	3	1						
	卸売業、小売業（ " ）	-2	6	12	-2	-1						
	医療、福祉（ " ）	15	3	4	7	-5						
	サービス業（医療、福祉以外）（ " ）	-12	1	-14	-2	11						
賃金	有効求人倍率（近畿）（季節調整値、倍）	0.81	0.85	0.89	0.95	0.99	0.95	0.97	0.98	1.00	1.00	
	新規求人倍率（近畿）（ " ）	1.33	1.39	1.43	1.52	1.60	1.50	1.57	1.56	1.63	1.62	
	現金給与総額（近畿）	-1.0	-1.4	-0.5	-0.4		-0.1	-0.5	-0.8	-0.3		
	所定内給与（近畿）	-1.1	-0.8	-0.6	-0.8		-1.1	-0.8	-0.9	-0.6		
個人消費	所定外給与（近畿）	-5.7	-3.3	0.9	3.5		2.4	3.4	6.4	5.4		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入（近畿）勤め先収入	-0.9	7.5	17.3	2.1	-2.6	7.2	-2.9	3.7	-4.2	-6.8	
	定期収入	-2.2	2.2	8.1	4.1	-1.8	5.1	2.1	0.7	-2.7	-3.4	
	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出（近畿）	3.1	7.0	5.3	7.5	4.5	12.1	0.7	2.8	6.2	4.5	
	大型小売店販売状況（近畿）百貨店＋スーパー	-0.5	0.8	-0.2	0.0	6.7	0.1	-0.2	-0.1	2.1	17.7	
	コンビニエンス・ストア販売状況（近畿）	-1.7	-0.6	-0.8	0.8	2.1	1.1	0.9	0.4	2.1	3.8	
住宅投資	家電販売額（近畿）	-7.0	1.6	-5.8	2.1	40.1	6.1	-1.2	11.0	34.4	68.6	
	新車登録台数（近畿）	-10.3	-4.9	0.8	19.4	22.5	16.2	24.6	28.2	20.8	20.4	
	消費者態度指数（近畿、一般世帯）（原数値）（※）	42.9	44.8	44.0	40.6	38.2	41.0	40.3	39.9	37.7	36.9	37.1
	新設住宅着工戸数（近畿）（季節調整済年率換算、千戸）	134.5	149.3	146.8	164.6	134.4	168.4	162.3	141.8	132.3	129.1	
	（前年比、%）	0.0	5.9	15.3	29.6	0.0	37.9	33.1	11.7	-13.3	2.5	
設備投資	法人企業統計季報（近畿）設備投資 製造業	-28.7	-26.5	-13.7	-3.9							
	非製造業	6.1	7.2	23.2	5.0							
公共投資	企業立地件数（近畿）（件）	—	—	—	—	—	18	13		18		
	公共工事請負額（近畿）	-8.3	10.1	37.1	11.6	11.6	-7.0	37.8	33.2	-6.8	20.8	20.3
輸出入	実質輸出（近畿）（季節調整済、10年=100）	93.0	97.2	96.7	97.5	97.8	99.1	97.9	96.1	99.2	98.2	100.3
	通関輸出（大阪税関）輸出総額	-0.2	7.6	10.4	13.4	9.0	15.7	10.6	10.3	15.0	3.1	8.7
	実質輸入（近畿）（季節調整済、10年=100）	111.1	111.4	115.2	117.9	122.7	117.5	117.4	124.7	115.4	128.1	113.7
	通関輸入（大阪税関）輸入総額	6.6	8.5	15.7	19.3	18.6	12.2	22.5	26.9	7.5	20.1	2.7
物価	消費者物価指数（近畿）生鮮食品を除く総合	-0.6	0.0	0.7	1.3	1.6	1.3	1.5	1.6	1.6	1.6	
	食料及びエネルギーを除く総合	-0.9	-0.4	-0.2	0.5	0.8	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	
金融	国内銀行預金残高（近畿）	2.3	2.8	2.3	2.5	1.7	2.7	2.5	2.2	1.7	1.3	
	国内銀行貸出金残高（近畿）	1.0	0.7	0.3	1.1	0.1	0.6	0.1	0.6	0.7	0.3	
倒産	倒産件数（近畿）	-13.8	-10.5	-10.9	-14.3	-5.7	-19.9	-17.8	2.7	-8.9	-22.7	0.0

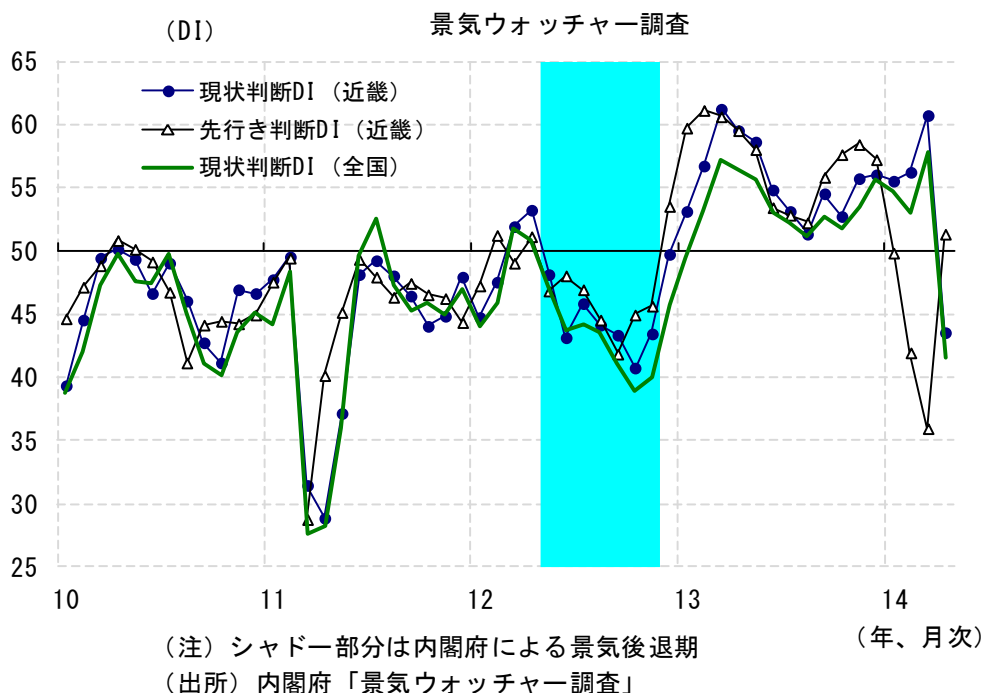
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%
消費者態度指数は、13年3月までは訪問留置調査、4月以降は郵送調査の値。

1. 景気全般 ～緩やかに持ち直している

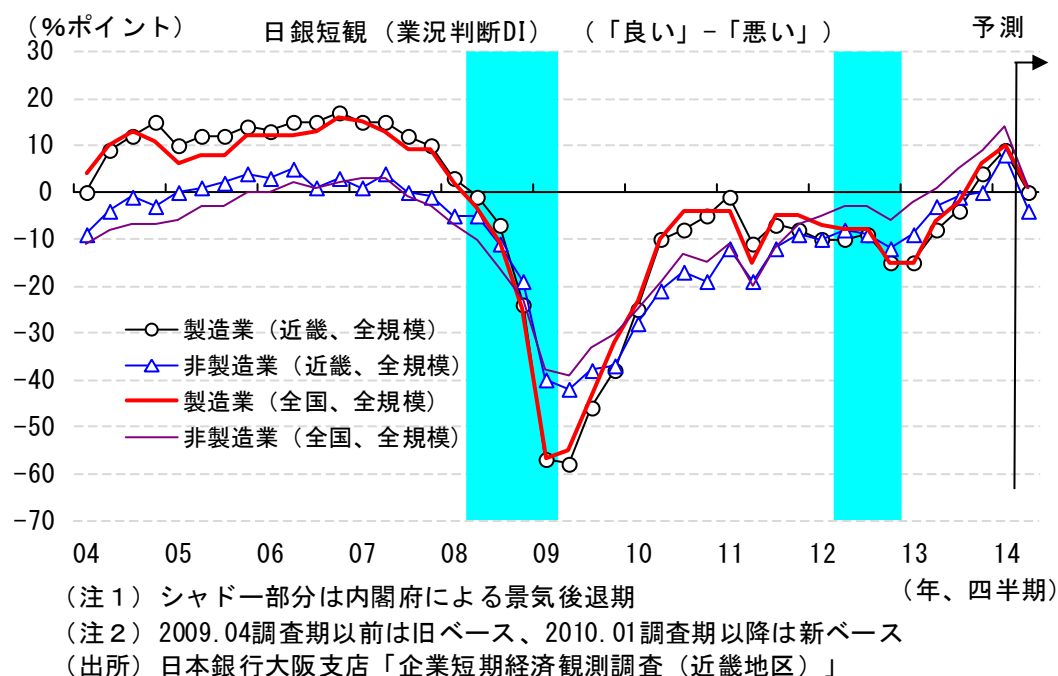
○2月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は117.5と3ヶ月ぶりに低下した。採用7系列のうち、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、大口電力使用量、輸入通関額、商工業ガス消費量の5系列がマイナスに寄与した。また、2月のC I先行指数は107.9と3ヶ月連続で低下した。採用9系列のうち、鉱工業在庫率指数、新設住宅着工戸数、新車販売台数、消費者態度指数など5系列がマイナスに寄与した。



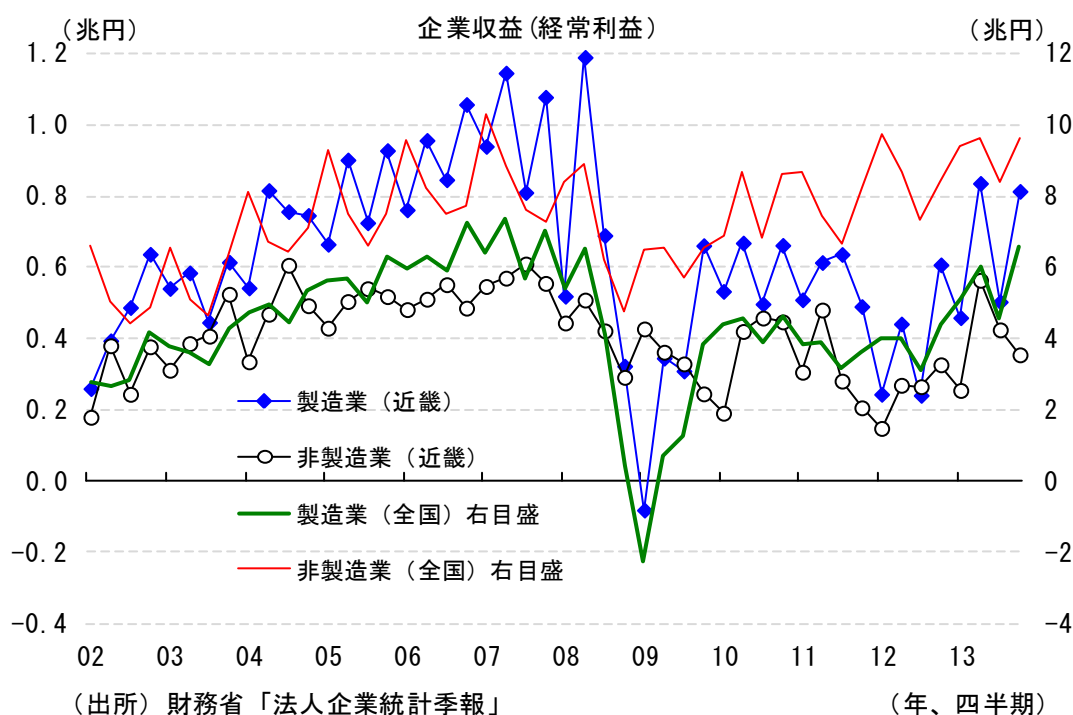
○景気ウォッチャー調査によると、4月の近畿地区の現状判断D Iは前月差-17.2ポイントの43.6と3ヶ月ぶりに低下し、景気の横ばいを示す50を下回った。一方、先行き判断D Iについては、同+15.4ポイントの51.4と5ヶ月ぶりに上昇し、50を上回っている。消費税率引き上げの影響により景況感は一時的に悪化したものの、早期の復調が見込まれている。



○日銀短観3月調査によると、近畿地区の業況判断D I（「良い」－「悪い」）は全産業（全規模）で+8と12月調査比で6ポイント改善し、2四半期連続で判断がプラスとなった。製造業（全規模）は+9と5ポイント改善、非製造業（全規模）は+8と8ポイント改善した。先行きについては、製造業、非製造業とも悪化が見込まれている。

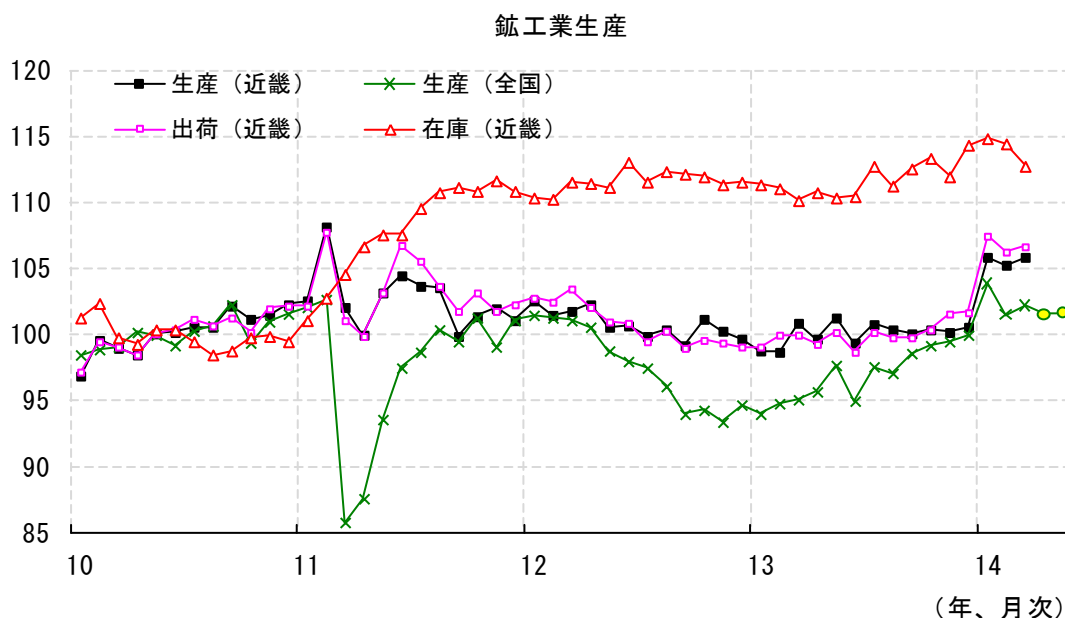


○2013年10～12月期の近畿地区の大企業の経常利益（全産業）は、前年比+25.1%の増加となった。製造業は同+34.0%、非製造業では同+8.6%となった。7～9月期に比べると伸び率は縮小したが、依然高い伸びを維持している。日銀短観でみると、13年度の経常利益は全産業・全規模で同+30.5%と大幅増を見込むが、上期の同+98.5%に対し、下期は同-3.2%と減少が見込まれている。



2. 生産 ～駆け込み需要が影響して高水準横ばい

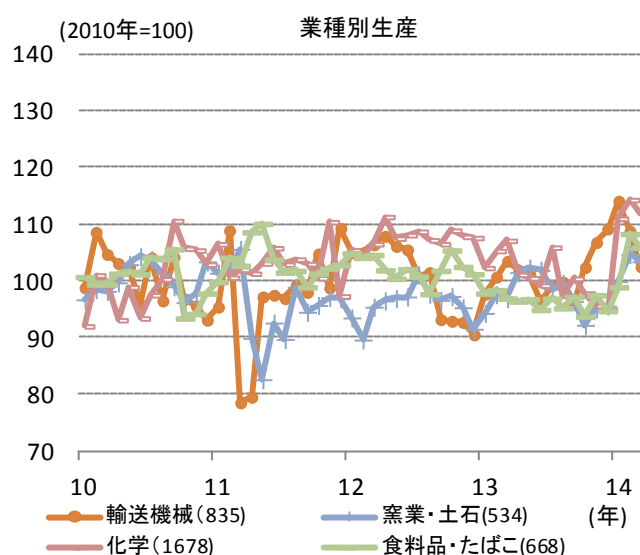
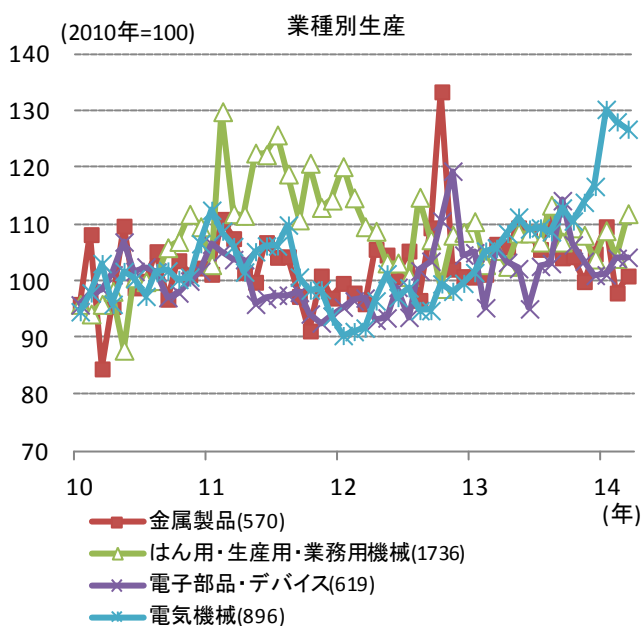
○3月の近畿地区の鉱工業生産は前月比+0.6%と2ヶ月ぶりに増加した。化学、電気機械、鉄鋼などが減少したが、情報通信機械、はん用・生産用・業務用機械などが増加した。1月以降の生産は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が影響して高い水準で推移している。今後については、一時的な反動減が予想されるが、世界経済の緩やかな回復が続く中で緩やかな持ち直し基調での推移が見込まれる。



(注) 生産(全国)の「○」は製造工業生産予測調査結果から試算した予測

基準年は2010年

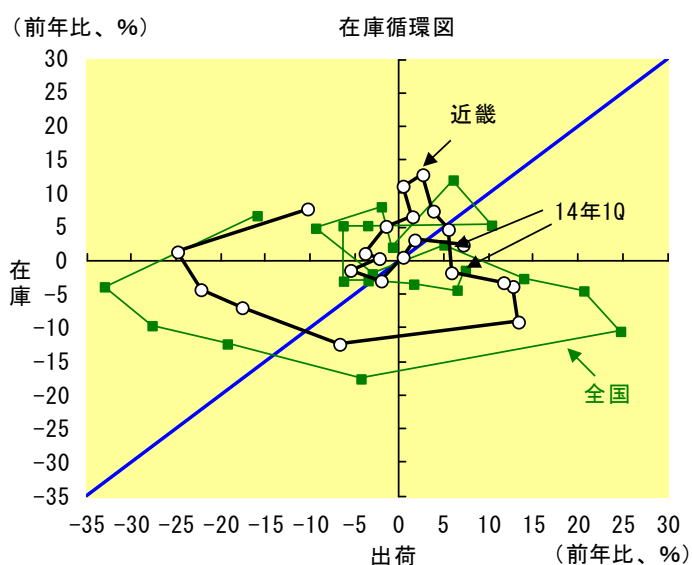
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



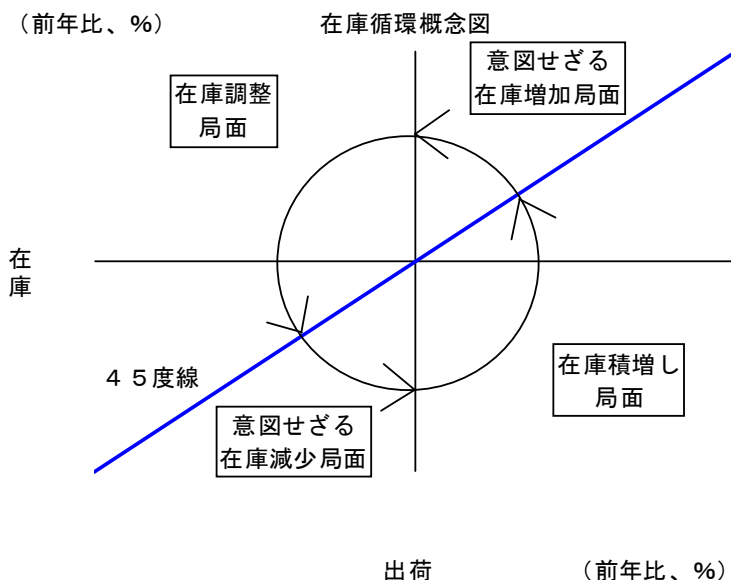
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト
(鉱工業=10,000)

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

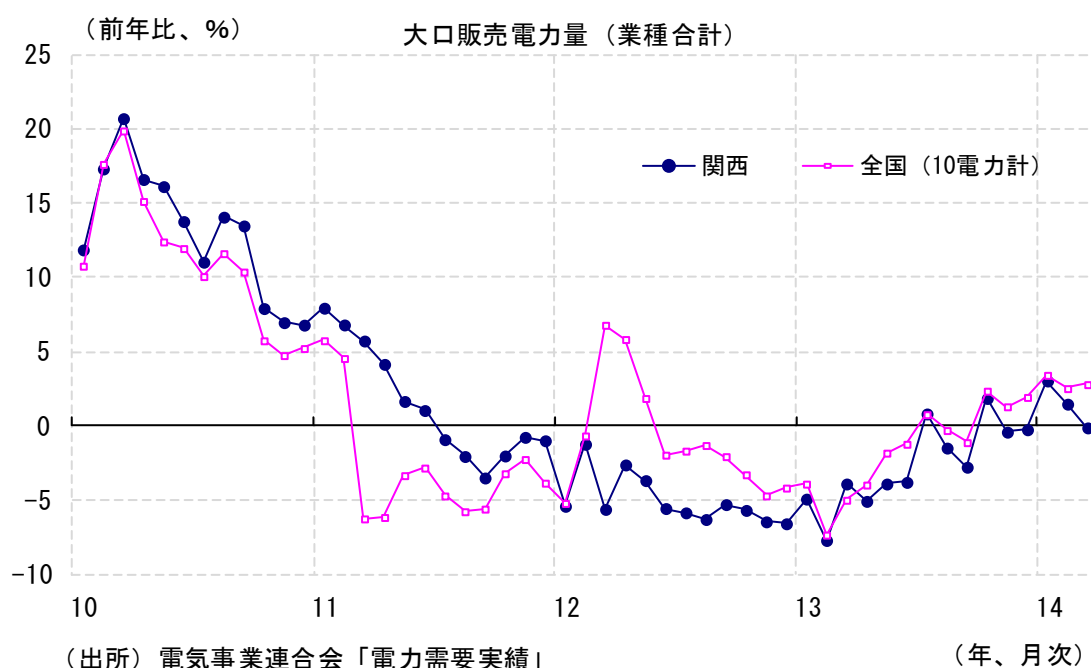
○3月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比+0.4%と2ヶ月ぶりに増加した。輸送機械、電気機械などが減少したが、金属製品、はん用・生産用・業務用機械工業などが増加した。鉱工業在庫は、前月比-1.5%と2ヶ月連続で減少した。輸送機械、鉄鋼、非鉄金属などが増加したが、電気機械、金属製品、石油・石炭製品などが減少した。



(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

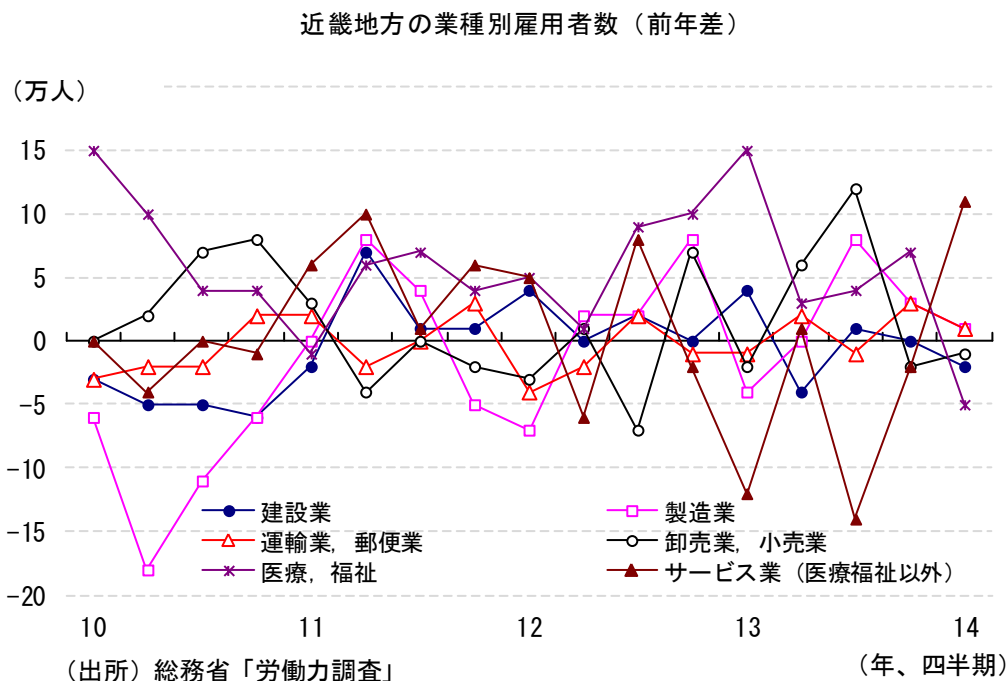
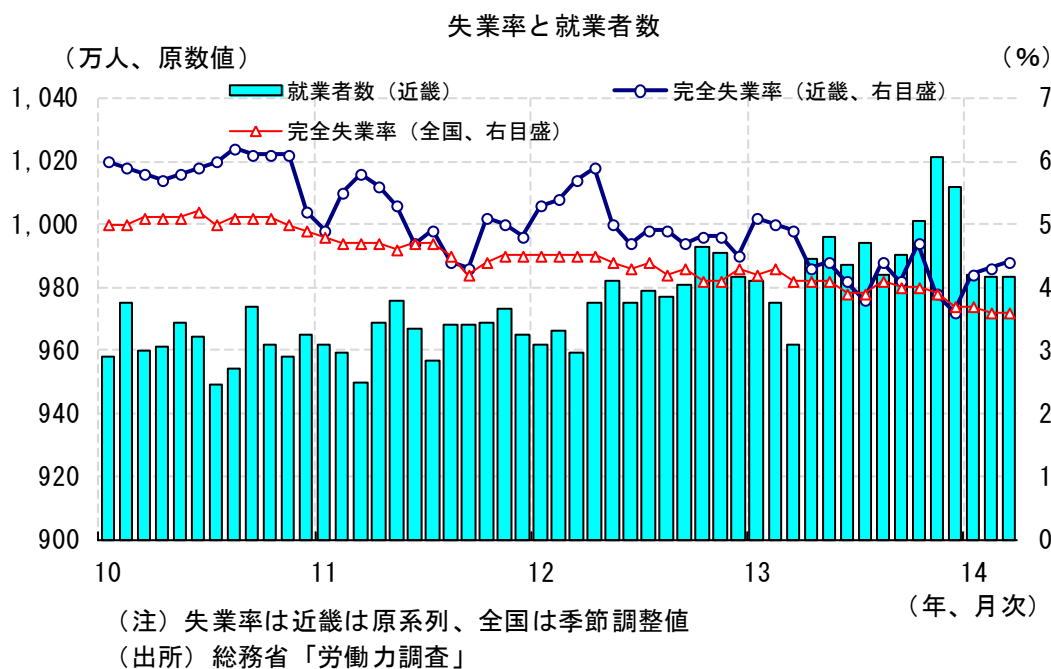


○3月の関西電力の大口販売電力量（契約電力500kw以上の産業用需要）は、前年比-0.1%と3ヶ月ぶりに前年実績を下回った。業種別にみると、製造業では主要11業種中、鉄鋼、ゴム製品、繊維など6業種で前年比増加となったが、食料品、石油・石炭製品、機械製造業など5業種で減少した。非製造業では、鉄道業が増加したが、水道業、その他が減少した。

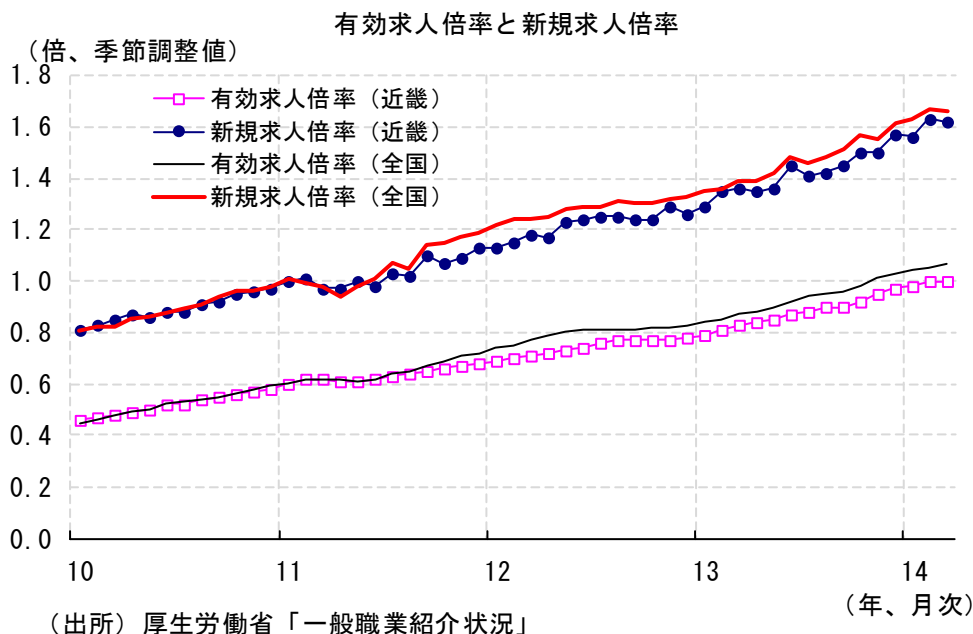


3. 雇用 ～緩やかに持ち直している

○3月の近畿の完全失業率は4.4%と前年差0.5%ポイント低下した。雇用者数は前年差21万人の増加、就業者数は同23万人の増加となり、完全失業者数は同4万人減少した。業種別（2014年1～3月期）に雇用者をみると、サービス業（医療福祉）、建設業などが減少する一方、製造業、サービス業（医療・福祉以外）などが増加した。雇用情勢は緩やかに持ち直しており、今後も持ち直しが続くと思込む。

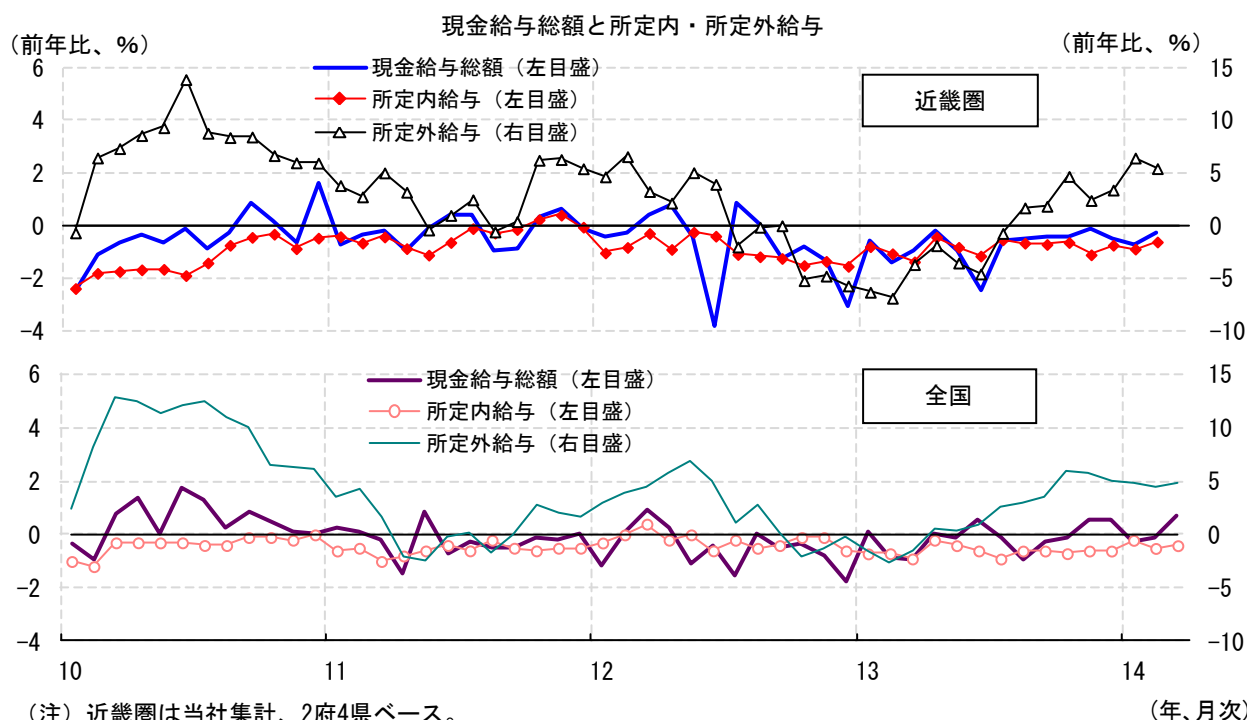


○3月の近畿圏の求人動向は、有効求人数が前月比－1.8%と34ヶ月ぶりに減少、有効求職者数が同－1.9%と2ヶ月連続で減少し、有効求人倍率は1.00倍（前月と変わらず）となった。有効求人倍率に先行する新規求人倍率は1.62倍と小幅ながら2ヶ月ぶりに低下した。新規求職申込件数が前月比－2.9%と2ヶ月連続で減少し、新規求人数が同－3.5%と4ヶ月ぶりに減少した。

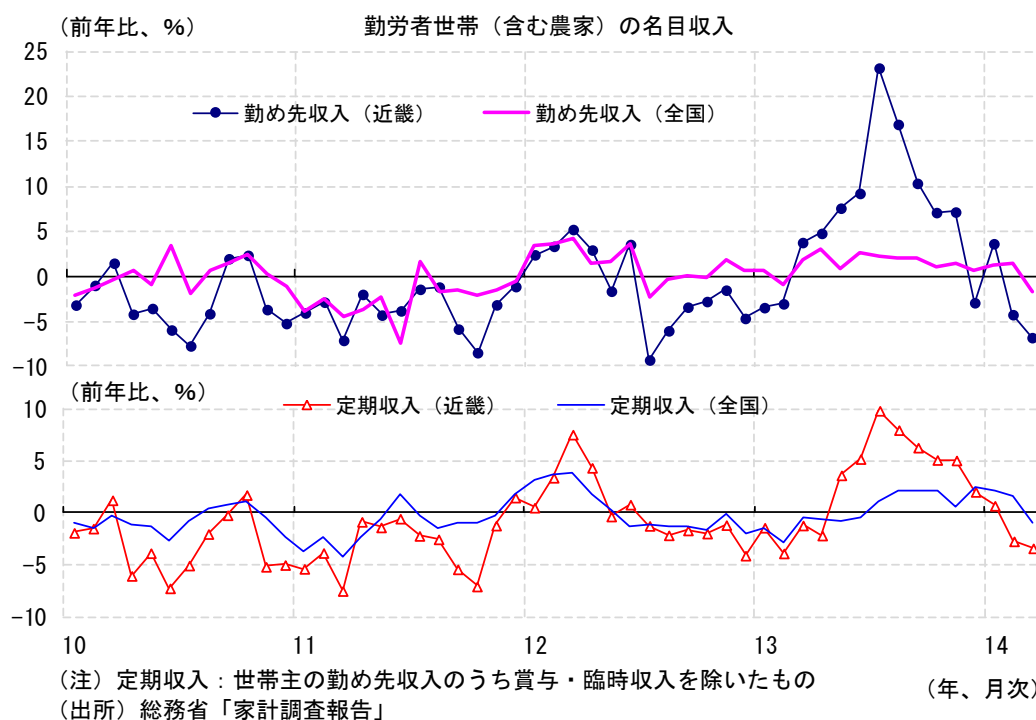


4. 賃金 ～緩やかに減少している

○2月の近畿圏の現金給与総額は、前年比－0.3%の25.8万円と18ヶ月連続で減少した。所定外給与は同＋5.4%と7ヶ月連続で増加したが、所定内給与は同－0.6%と27ヶ月連続で減少した。今後は企業の人件費抑制姿勢が続くものの、所定外給与の増加や春闘による賃金引き上げも見込まれるため、所定内給与や現金給与総額は下げ止まりが見込まれる。

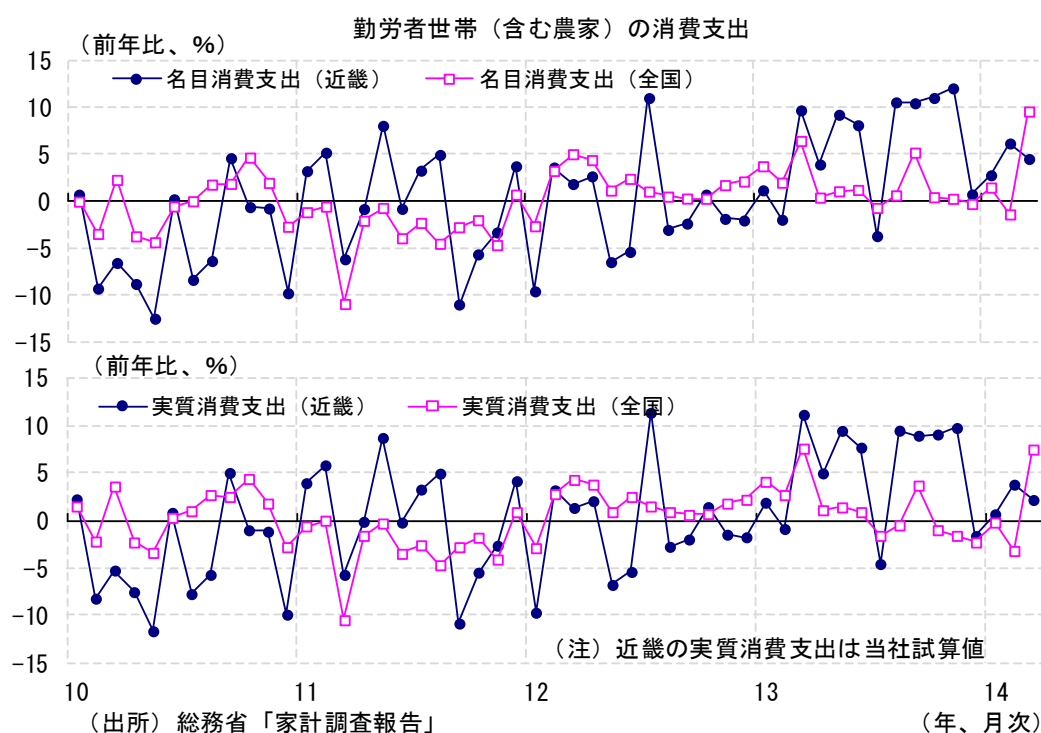


○家計調査によると、3月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の勤め先収入は前年比－6.8%の39.8万円と、2ヶ月連続で減少した。内訳をみると、世帯主収入が同－6.2%の35.7万円、賞与・臨時収入を除いた世帯主の定期収入が同－3.4%の34.4万円と共に2ヶ月連続で減少した。

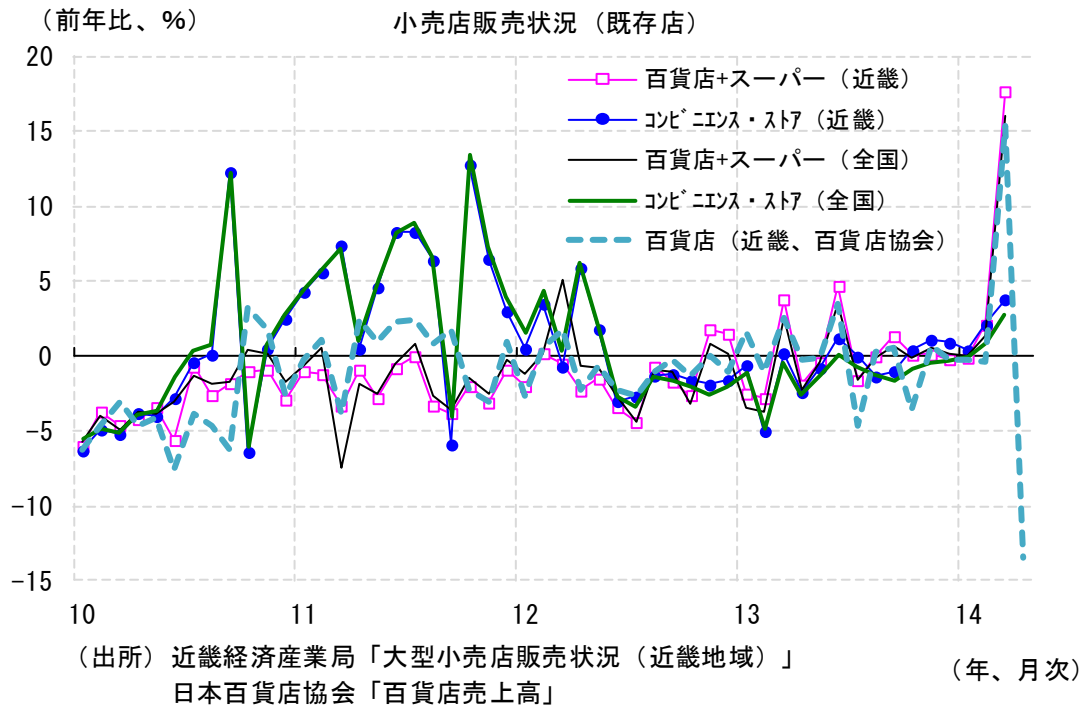


5. 個人消費 ～緩やかに持ち直しているが、一部に駆け込み需要の反動がみられる

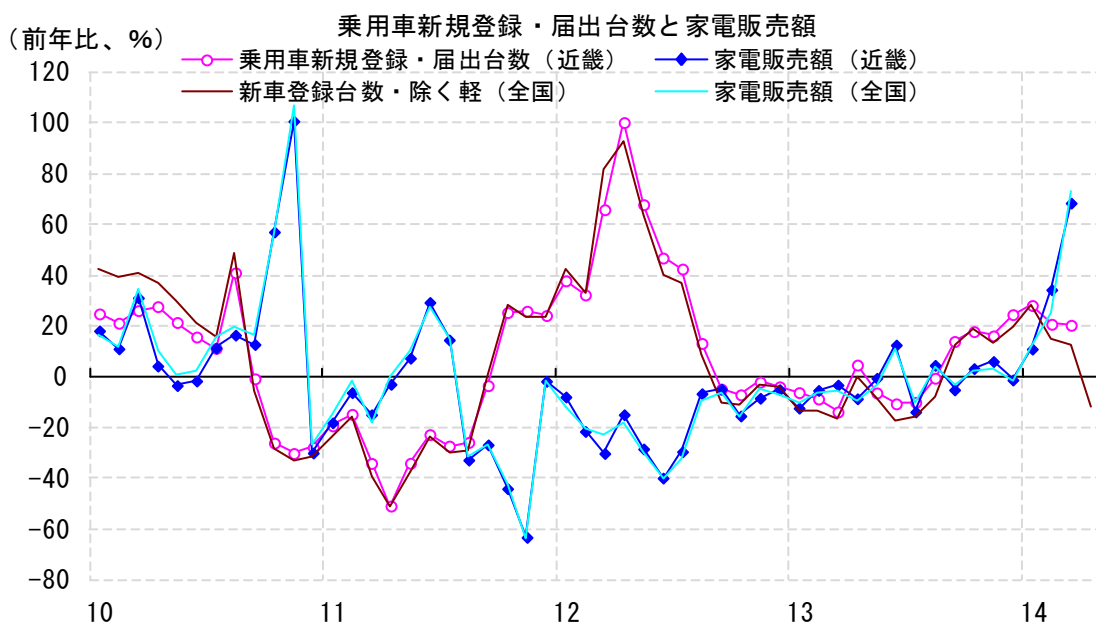
○家計調査によると、3月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比＋4.5%と8ヶ月連続で増加し、物価の上昇分を除いた実質でも同＋2.2%と3ヶ月連続で増加した。関西の個人消費は一部に駆け込みの反動もみられるが、ゆるやかに持ち直している。今後の個人消費は、賃金が下げ止まりに向かい雇用環境が緩やかに持ち直す中、緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。



○3月の近畿地区の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は、消費税率引き上げ前の駆け込みにより、既存店ベースで前年比＋17.7%、全店ベースで同＋19.3%と増加した。また、コンビニエンス・ストアの販売額は既存店ベースで同＋3.8%、全店ベースで同＋8.8%と増加が続いている。一方、4月の百貨店売上高（百貨店協会）は、店舗調整後前年比で－13.5%と反動減があらわれている。

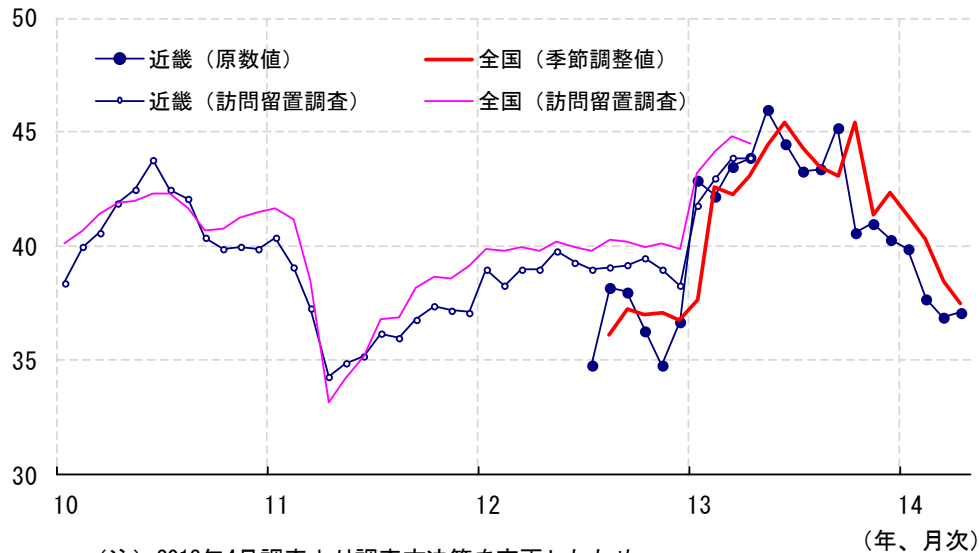


○3月の近畿地区の自動車販売台数は前年比＋20.4%と7ヶ月連続で増加した。消費税率引き上げ前の駆け込みや新車投入効果が増加に寄与した。一方、4月の販売台数は全国で－11.8%となっており、近畿でも反動減が見込まれる。3月の近畿地区の家電販売は、駆け込み需要の高まりにより前年比＋68.6%と3ヶ月連続で大幅に増加した。高額家電など多くの商品が前年比で大きく伸びている。



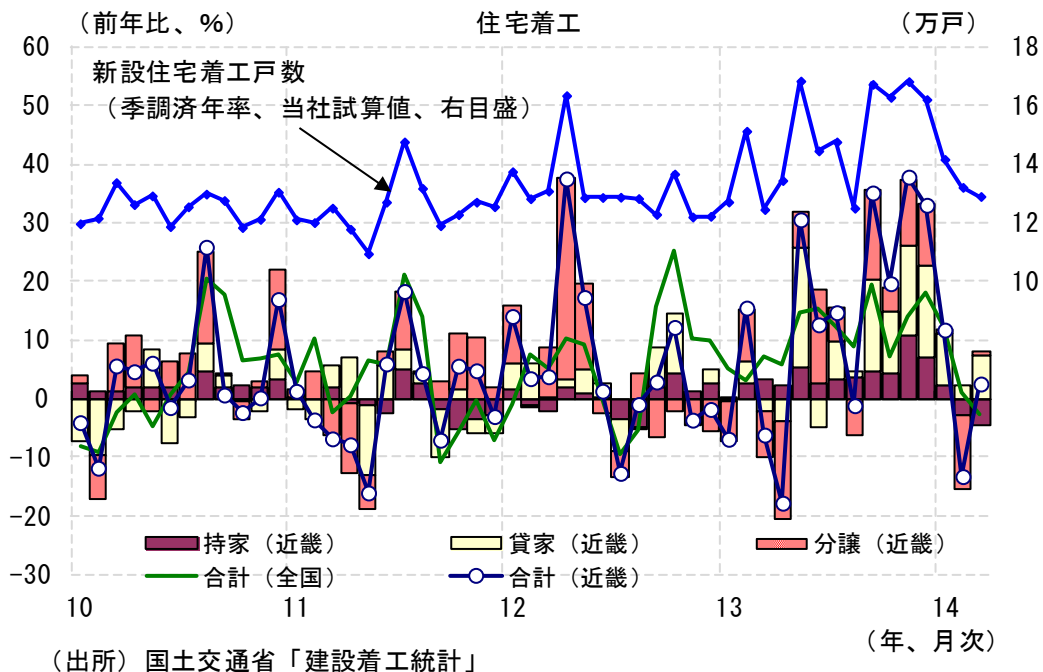
○消費者マインドを表す指標である消費者態度指数（近畿、一般世帯、原数値）は、4月は前月差+0.2ポイントの37.1と小幅ながら5ヶ月ぶりに上昇した。10月に大きく水準を下げた後、低下基調で推移しており、安倍政権発足後のマインドの改善はほぼ剥落している。今後については、消費税率引き上げ後の反動減はすでに織り込まれているため、消費マインドの悪化には歯止めがかかろう。

消費者態度指数（一般世帯、原数値）



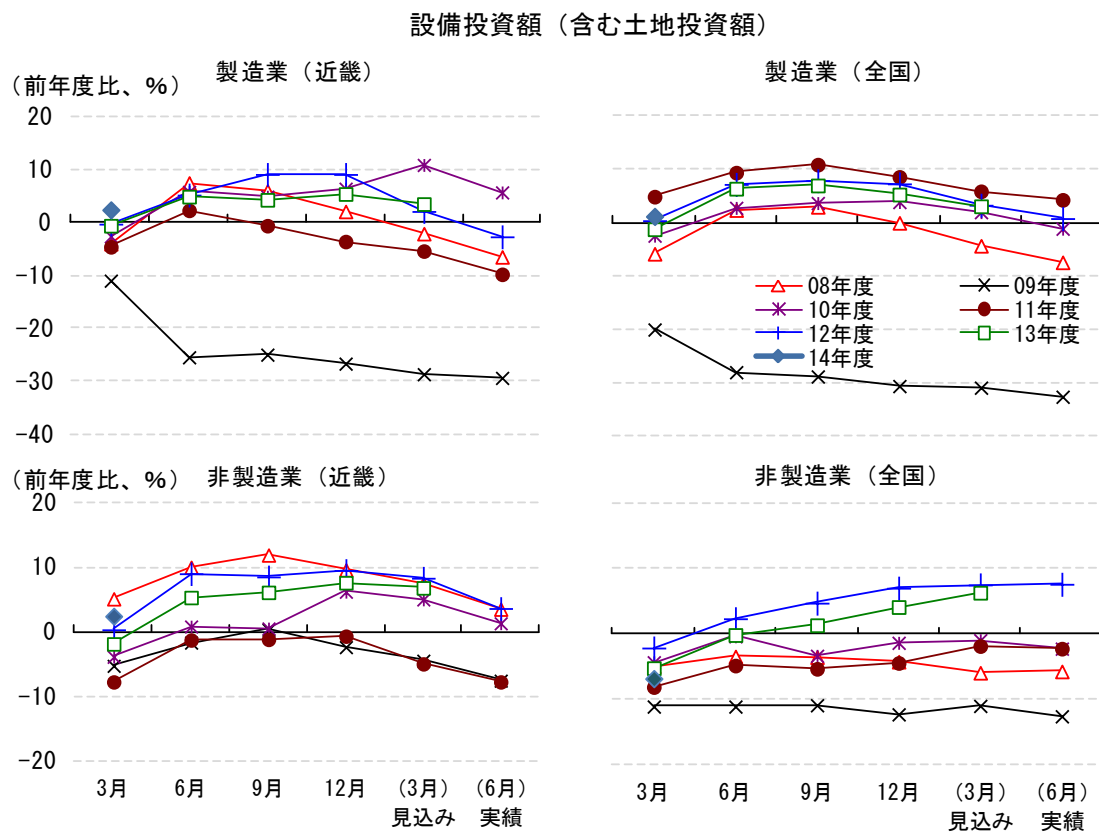
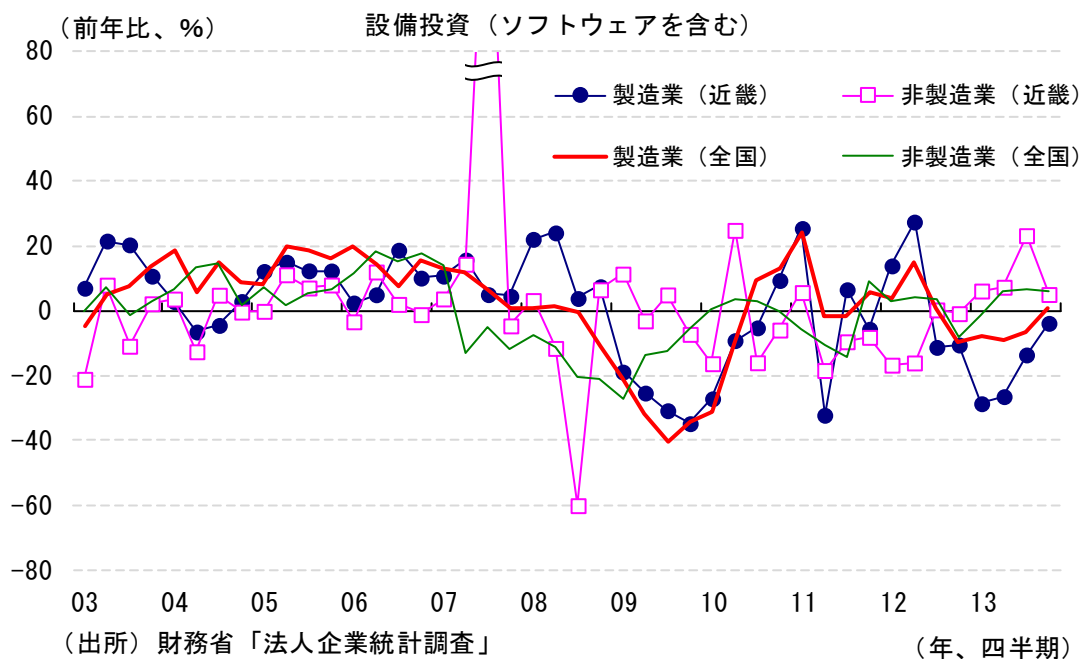
6. 住宅投資 ～減少している

○3月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比+2.5%の11,170戸となり2ヶ月ぶりに増加した。内訳をみると、持家が減少したが、貸家、分譲が増加した。季調済戸数は年率12.9万戸と4ヶ月連続で減少した。近畿の住宅着工は、消費税率引き上げ前の駆け込みにより高水準が続いてきたが、昨年終わりがら反動減があらわれてきており、今後も弱めの動きが続くと見込まれる。

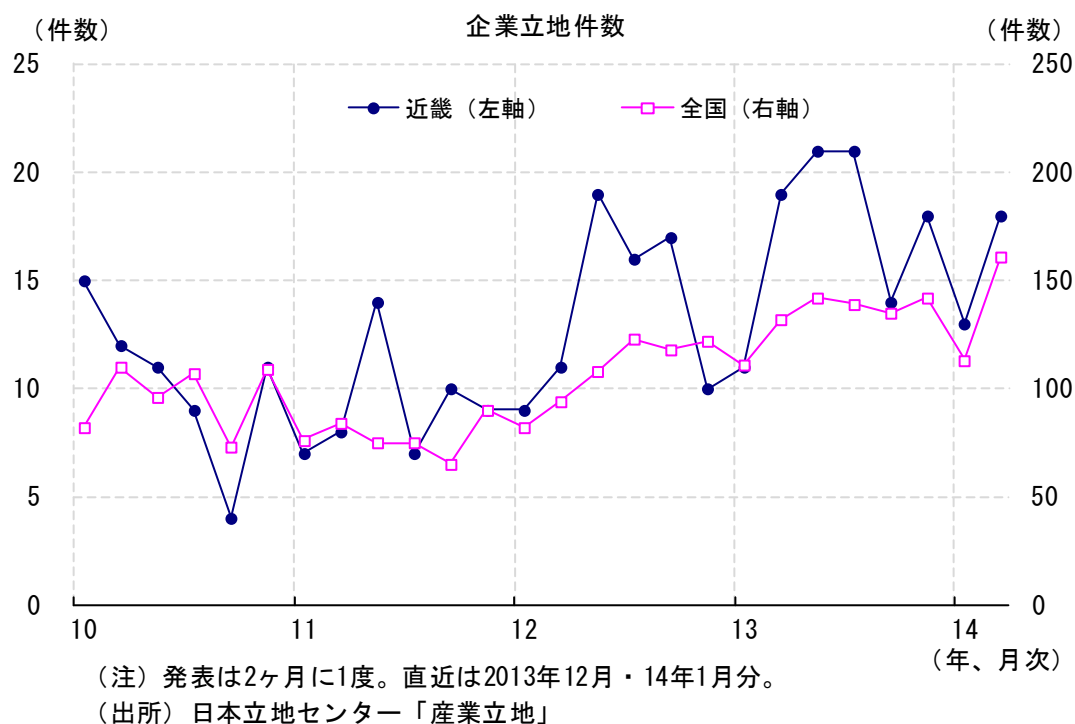


7. 設備投資 ～非製造業を中心に持ち直している

○2013年10～12月期の関西の大企業の設備投資（ソフトウェアを含む）は前年比+1.0%と2四半期連続で増加した。製造業は同-3.9%と6四半期連続で減少したが、非製造業は同+5.0%と4四半期連続で増加した。日銀短観3月調査では、13年度は製造業で同+3.5%、非製造業で同+6.8%と持ち直しを見込んでいる。14年度計画は、製造業で同+2.4%、非製造業で同+2.4%となっている。

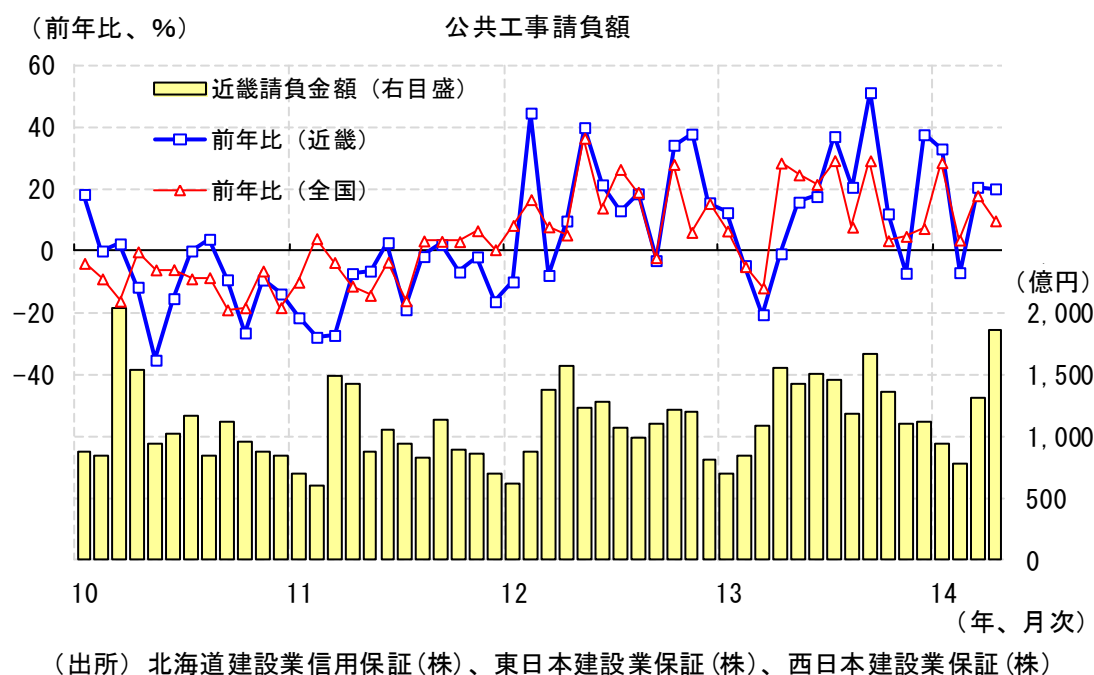


（出所）日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査（近畿地区）」



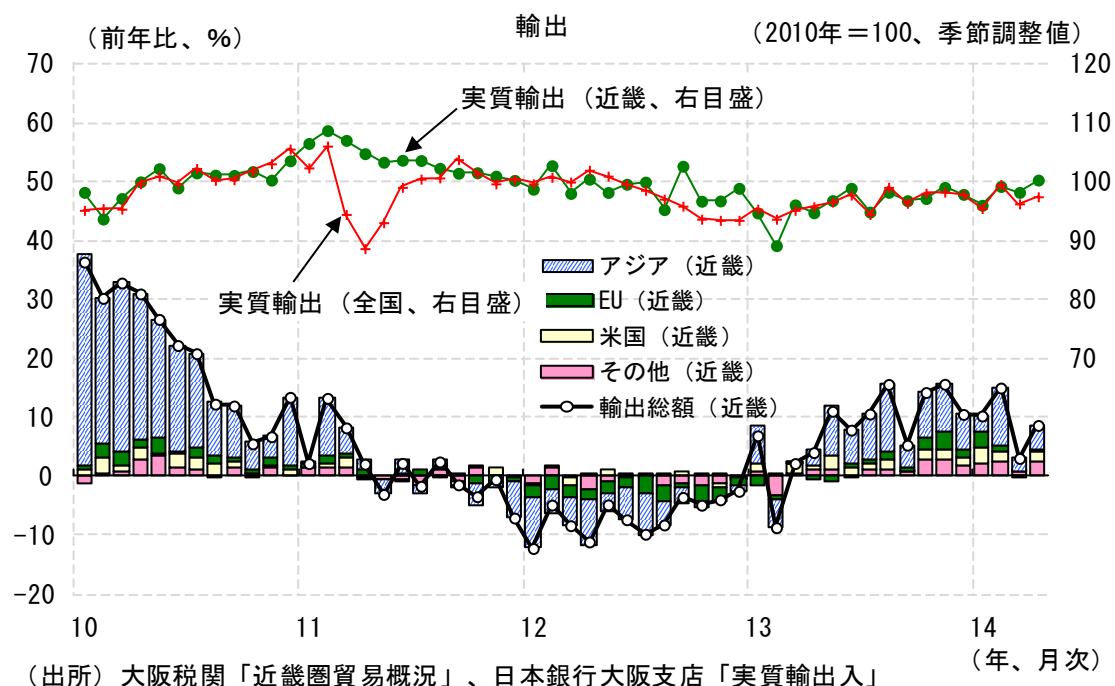
8. 公共投資 ～増加している

○4月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比+20.3%の1,870億円と2ヶ月連続で増加した。都道府県別では関西地区2府4県のすべてで増加、発注者別では都道府県を除く、国、独立行政法人、市区町村で増加した。緊急経済対策の押し上げ効果は剥落しているが、足下では消費税率引き上げ対策に伴う工事の効果があらわれてきている。

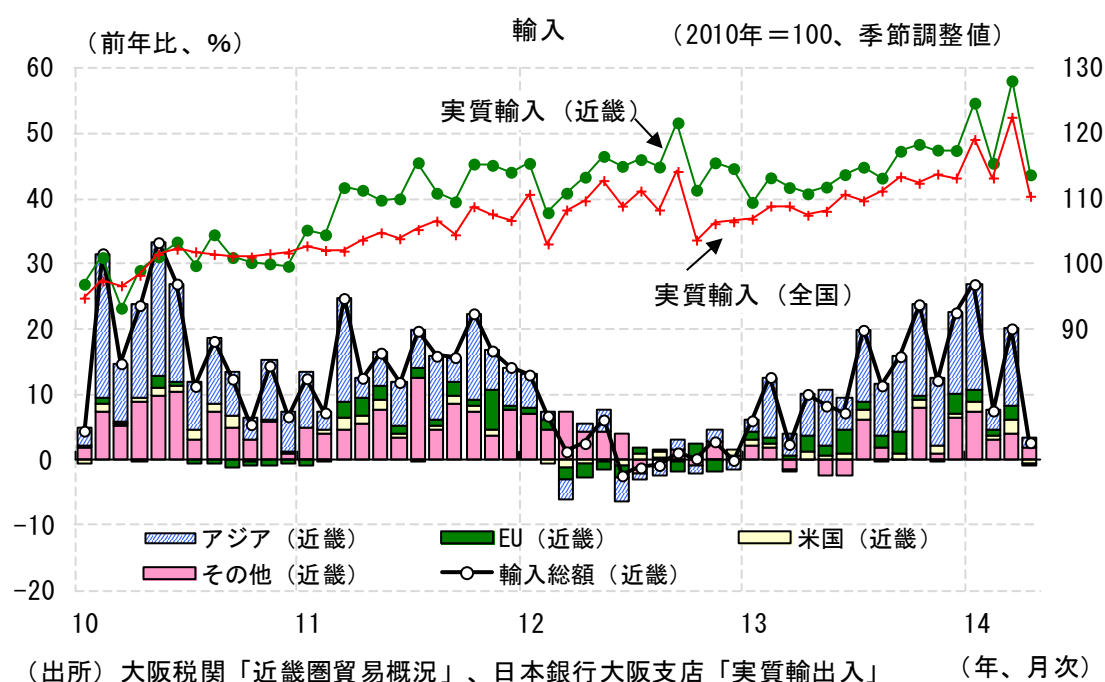


9. 輸出入 ～輸出、輸入とも横ばい

○4月の近畿地区の実質輸出は前月比+2.1%と2ヶ月ぶりに増加したが、横ばい圏で推移している。また、4月の輸出額（通関統計）は前年比+8.7%の1兆3,141億円と14ヶ月連続で増加した。地域別では、アジア、米国、EU向けが増加した。品目別では原動機、鉄鋼等が減少する一方、鉱物性燃料等が増加した。今後は、海外経済の緩やかな回復の下、持ち直しを見込む。

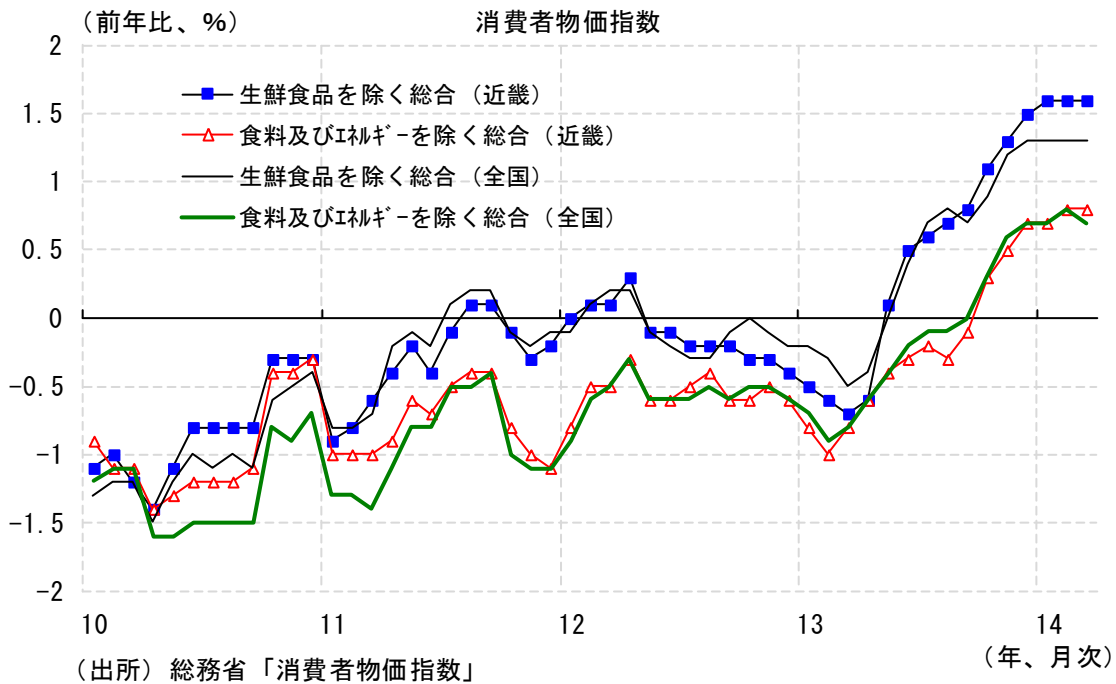


○4月の近畿地区の実質輸入は、増税前の駆け込みの反動もあって前月比-11.2%と2ヶ月ぶりに減少した。一方、4月の輸入額は前年比+2.7%の1兆3,221億円と16ヶ月連続で増加したが、増加幅は大幅に縮小した。地域別では米国、EUからは減少したが、アジアからが増加した。品目別では衣類及び同付属品、原油及び粗油等が減少する一方、天然ガス及び製造ガス、半導体等電子部品等が増加した。



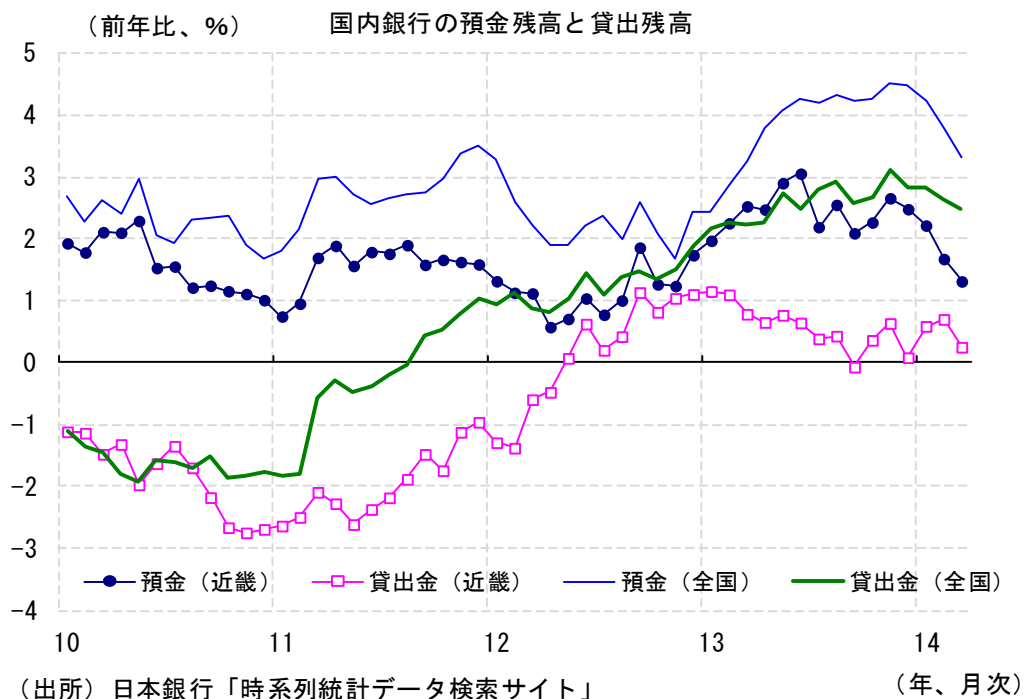
10. 物価 ～消費者物価は上昇

○近畿圏の消費者物価は上昇している。3月は、総合で前年比+1.9%と10ヶ月連続で上昇し、生鮮食品を除く総合で同+1.6%と11ヶ月連続で上昇した。また、食料・エネルギーを除く総合でも同+0.8%と6ヶ月連続の上昇となった。川上での物価上昇圧力は落ち着いてきているが、家計の雇用所得環境の一部持ち直しもみられ、川下での物価上昇が広がってきている。



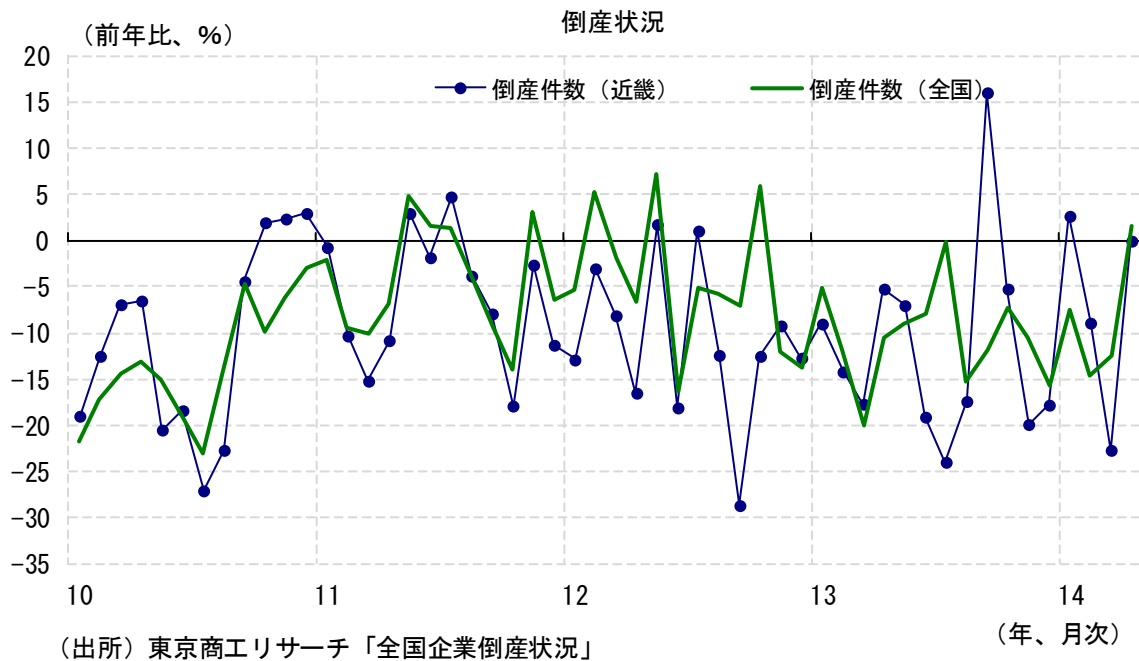
11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

○3月の近畿地区の預金残高（国内銀行ベース）は、前年比+1.3%の106兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の3月の貸出残高（国内銀行ベース）は、同+0.3%の59.5兆円と6ヶ月連続で増加した。法人向け需要は弱いものの、住宅ローンが増加している。



12. 倒産 ～倒産件数は前年と同数、負債総額は減少

○4月の近畿地区の倒産件数は、前年と同数の235件となり、低い水準で推移している。県別にみると京都、奈良で前年比減少となったが、他の府県は増加した。また、倒産企業の負債総額は、同一44.5%の184億円と3ヶ月連続で減少した。県別では、和歌山が増加したが、他の府県は減少した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	→	輸出	全国	→	☁	↗
	東海	→	☁	→		東海	→	☁	→
	関西	→	☁☔	→		関西	→	☁☔	↗
個人消費	全国	↗	☁	↘	輸入	全国	↗	☀	↘
	東海	↘	☁	↗		東海	→	☁	→
	関西	↘	☁	↗		関西	→	☁	→
住宅投資	全国	↘	☁	↘	生産	全国	↗	☁	↘
	東海	↘	☁	→		東海	→	☁☀	↘
	関西	↘	☁	↘		関西	→	☁☔	↘
設備投資	全国	→	☁	↗	雇用	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁	→		東海	→	☁	→
	関西	↗	☁☔	↗		関西	↗	☁	↗
公共投資	全国	↗	☁	→	賃金	全国	→	☔	→
	東海	↗	☁	↗		東海	↗	☁	↗
	関西	↗	☁	→		関西	↘	☔	→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は5月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		4月のコメント	5月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	持ち直しが続いているが一部に駆け込み需要の反動がみられる
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	増勢は一服	増勢は一服
	東海	増税前の駆け込み需要による増勢は一服	増税前の駆け込み需要による増勢は一服
	関西	緩やかに持ち直している	駆け込み需要が影響して高水準横ばい
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに減少している	緩やかに減少している
5. 個人消費	全国	増税前の駆け込み需要もあり増加している	増税後、反動減がみられる
	東海	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	持ち直しが続いているものの、駆け込み需要の反動がみられる
	関西	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	緩やかに持ち直しているが一部に駆け込み需要の反動がみられる
6. 住宅投資	全国	減少している	減少している
	東海	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	関西	減少している	減少している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している
	関西	非製造業を中心に持ち直している	非製造業を中心に持ち直している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加が一服している	増加している
	関西	増加が一服している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加傾向	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加傾向
	東海	輸出は減少傾向、輸入は増加傾向	輸出は横ばい圏、輸入は減少
	関西	輸出は横ばい、輸入は増加傾向	輸出、輸入とも横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価は上昇ペースが鈍化、消費者物価は上昇	国内企業物価は上昇ペースが鈍化、消費者物価は上昇
	東海	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
	関西	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数は前年と同数、負債額は減少

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と東海地区（グラフで見る東海経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。